

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970800344		
法人名	社会福祉法人 三寿福祉会		
事業所名	グループホーム 友楽苑		
所在地	奈良県御所市重阪771-3		
自己評価作成日	平成21年10月17日	評価結果市町村受理日	平成22年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている「家庭的な雰囲気の中」と言う一つに、館内全体が木をふんだんに使用し、木のぬくもり、自然を身体全体で感じられる事も高齢者にとっての安心感の一つです。その様な環境のもと、私達職員は、一緒に生活を共にする家族の一員である事と、また喜怒哀楽と一緒に感じる事を理解しながら、個々のケアにあたっています。「できないこと」「わからないこと」に目を向けず、「できること、できそうなこと。」「わかること、わかりそうなこと。」に目線をおき、個々の利用者の持っているか隠された力を発揮できる環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、広大な敷地内に社会福祉法人三寿福祉会が設置・運営する在宅複合型施設の一つとして開設されています。ホーム内は、木材をふんだんに使用され温もりが感じられます。また、明るく広い生活空間は清掃が行き届き清潔感に溢れており、自然光の採り入れにも工夫され穏やかに過ごせる場所となっています。入居者は、特技や趣味を活かしつつ自分のペース・リズムで生活されています。職員も、運営理念を大切に、優しく誠実な支援に努められています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成21年11月17日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>全スタッフが理念を頭に入れ業務できるよう、決まった時間に読み上げ、共有と実践を行っている。</p>	<p>地域との結びつきを重視し、尊厳ある自立した生活を支援する事に着目した理念があり、引継ぎ時に掲出されている理念を職員が唱和し、認識を深め実践に活かす為の取り組みが毎日行われています。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>外出支援の機会を有効活用し利用者のなじみのある場での生活を確保している。</p>	<p>立地環境から、日常的な交流に希薄感がありますが、自治会への加入や地域の行事への参加・外出時での挨拶等、ホームが孤立しない為の取り組みがなされています。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>積極的な貢献はないが、運営推進会議を通じて報告している。今後は地域の方への浸透を深める活動を行っていきたい。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度開催し、家族様の声、利用者の声を聞かせていただき、サービス向上及び、現状の改善策へと取り組んでいる。</p>	<p>行政・自治会代表等幅広いメンバーで構成された運営推進会議が設置され、定期的開催されています。会議では、運営上の様々な課題や問題点について意見交換され、改善に向けての取り組み機会とされています。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通じて、アドバイスを頂き、日頃から協力関係にある。</p>	<p>新規入居者の諸課題の相談や日常的な支援の状態等を伝える等により連携強化に努められています。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、十分理解しているが、安全上をふまえ、どうしてもやむおえない場合のみ、家族様の許可を得て行う場合がある。</p>	<p>身体拘束に係るマニュアルを作成し、身体拘束の弊害を正しく理解し実践に活かす取り組みがなされています。なお、身体拘束を必要とする時には、医師の意見を基に時間帯・期間を家族に説明され、同意の下に行われる事もあります。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月行う研修により、知識を身につけている。又再認識の確認を適宜行っている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や資料配布する事により、職員への理解を深めているが、理解度は希薄である。必要性が生じた場合でも、迅速に対応できるように職員の資質の底上げが必要である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の際、また家族の声には十分な説明を行い、理解をして頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭での意見、要望はその都度対応させて頂き、また苦情相談窓口を設置する事により、家族の声が反映されるように取り組んでいる。	家族の訪問時や運営推進会議等で、意見・希望・苦情等を聞きだす取り組みがなされ、寄せられた意見等は記録すると共に職員会議に諮り運営に反映する仕組みとなっています。また、自由な意見を聴取する為の意見箱の設置もあります。	意見・要望等を記入する為の用紙が置かれています。意見開陳者が特定できる書式になっている事に起因し寄せられる意見等が無いのではと史料いたしますので、工夫される事を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は会議を開催し、意見質問できる機会を設けている。また緊急を要する場合は、迅速な対応を行い、職員の意見や提案を反映させている。	運営に関する自由な意見等の交換の機会として、定期的に行われている職員会議を活用されており、出された意見等は運営に反映させる取り組みがなされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件を反映し、職員自身からのやりがいや向上心が見られた場合、その実績や給与面に反映できるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	研修年間行事を立て、毎月1回グループホームでの研修を行っている。また他ユニットへの研修を行い、認知症ケアに取り組んでいる。力量や向上心のある職員については、随時外部研修を受講させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回を目途に、五條市グループホーム連絡会を開催し、意見交換及び今後のグループホームについての検討会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時には、利用者が不安にならない様声掛けには細心の注意を払いながら、利用者の現状把握に努めている。また困っていること、不安なことについては、サービス導入段階でアセスメントを立て、軽減できるように行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に加え、家族の思いや要望を十分理解し、一緒に利用者を支える信頼関係を築きながら、サービスの導入を図っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状はグループホーム入所希望者の方として対応しているため、特に他のサービスの必要性と支援策の話し合いは持っていない。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴から得意分野を見つけると共に、「できること」「わかること」の能力を引き出せる場を提供し、一緒に暮らしている家族の様な関係を築きあげ利用者の暮らしてきた延長を提供している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の都度、家族様にはお知らせすると共に、利用者と家族様の絆を大切にできるよう支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのなじみの関係の継続に加え、現在の生活の場でのなじみの関係の構築にも努めている。	これまでのなじみの関係の維持・継続と買い物や散歩中での挨拶等により新たな馴染み関係の構築に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士が助け合い、協力できる様支援している。また、孤独を感じさせない環境に配慮しつつも、自分の時間も大切に過ごして頂ける様、側面的ケアを持って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所後併設施設を利用されている利用者については、訪問している。今後は他施設へ入所された利用者についても関係性を持続していきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りその人らしく生活していただけるよう支援しているが、職員本位な面もある。利用者本位を再検討する必要がある。	暮らしの中での言動等を常に観察・記録し、把握されています。	職員本位な面もあると認識されていますので、本人本位に検討される事を期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入したり、回想法を用いて、利用者から情報を得たりしているが、全ての利用者の把握までに至っていない。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや身体・精神面での変化を記録し、申し送りにて様子観察しているが、意欲向上や残存機能を発揮する場面が少ないように思う。日常生活の中での創意工夫が必要である。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行っているが、職員本位の意見やアイデアになっている傾向である。利用者、家族等の関わりを踏まえた中で利用者本位のプラン作成に取り組んでいきたい。	入居者全ての介護計画は3ヶ月毎に見直しがおこなわれ、担当職員からの意見聴取や家族等の思いを計画に反映させる取り組みがなされています。	支援の中からの情報等を十分反映しきれていない面も窺えますので、入居者本位の計画作成に努められる事を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに記録やチェック表を作っている。些細なことでも職員間で申し送り、共有しケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設で行われる毎月1回の音楽療法には参加しているが、それ以外は取り組むことはできていない。今後の検討課題としなければいけない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源と地域で暮らしているということは理解しているが、立地場所も含め、利用者が心身の力を発揮して頂いていないのが現状である。こちらから出向いて行くことも検討し、実行していきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年かかりつけ医として安心されている利用者の気持ちと安心の医療を尊重しながら、家族を通じて、職員もかかりつけ医との関係を構築している。	基本は、協力医院での受診とされていますが、契約時に十分な話し合いがなされ、本人の希望を優先した支援に努められています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に随時相談し、専門的分野での助言をもらい、安心した暮らしへとつなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、利用者の状態及び様子を伺いに面会に行く。またその際看護師等との情報交換や退院後の支援策や援助法を相談しながら、利用者が混乱無く戻って来られるように連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族との十分な話し合いまでには至っていないが、利用者、家族が望まれている終末期に添えられるように対応を行い、また職員も同じ生活を送っている一員として取り組んでいきたい。	終末期への対応は重要な問題と認識され、対応指針の作成と職員への浸透・共有化を検討されている段階と史料します。	家族にとっても終末期への対応は極めて大きな問題でありますので、関係者で相談され、明確化と共有化を図られる事を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練を通じて、応急手当の方法を教わってはいるが、定期的な訓練は行っていない。今後は実践訓練を年間課題に取り入れ、職員全体の周知徹底を図っていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防団員の指導の下、日中・夜間を想定し防災訓練を行っている。また運営推進会議の場で地域住民の方の協力を得られる様に説明と理解を促し、体制を整えている。	定期的に消火・避難訓練が地元消防署の指導の下に実施されています。また、被災時に備え、同じ敷地内の他の事業所からの応援体制や、運営推進会議を通じて地域住民への応援・協力体制の整備に努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには最も注意し、受容な態度で対応している。また人生の先輩として、尊厳ある声掛けを行っている。	個性の尊重を基本に、一人ひとりに合わせた話し掛けや語調に意を用い支援されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を押しつけるのではなく利用者が選択できるような環境を整え、利用者の意思表示を大切にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の時間を大切にできるよう支援している。また個別ケアを重点に置き、楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	レクリエーションに美容を取り入れ、「その人らしく」を大切に、オシャレを楽しんで頂ける場を設けている。レパトリーを増やし自己決定して頂けるよう支援し、心の刺激につなげている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状は併設施設厨房から食事を搬入しているが、準備や下膳は利用者がしてくださっている。また、食事は職員と一緒に会話をしながら食事の時間を過ごして頂いている。	個々の能力に応じて、食卓の準備や後片付けに協働されており、職員も同じテーブルと一緒に食事をする等楽しく食事出来る環境づくりに努められています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入することにより把握している。また軽運動を行い空腹感を得られるように対応したり、併設施設の栄養士管理の下、バランスの摂れた食事を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の不潔がもたらす合併症を念頭におき、常に口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできる限り布パンツを使用し、利用者の排泄パターンを把握している。利用者の自尊心を傷つけないよう、おむつを使用する場合は利用者が納得して頂ける声掛けを行っている。	排泄パターンの把握・記録と行動等を常に観察し、自立排泄への取り組みがなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるよう、軽運動や水分量に留意している。またチェック表に記入し便秘防止につなげている。便秘気味の方には、主治医の指示のもと、服薬で対応し便秘からくる体調不良を回避している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員で決めてしまうこともあるが、本人の意志を最も尊重している。またいつでも入浴できる体制を作っている。	入浴は生活の中の楽しみの一つであることから、一人ひとりの希望を優先した支援が図られるよう、夜間帯や毎日入浴できる体制を整えられています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握し対応している。また昼夜逆転にならないよう、日中は楽しみのある生活作りを支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	紛失や誤薬防止のため、利用者の薬は職員が管理している。ケース担当者を中心とし、内服変更の際は申し送りを行い、副作用の有無の確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の日課や責任感を持って頂けるよう日常生活の中で役割があり、日々達成感へとつながっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブ支援を行ったり、社会的刺激につなげている。また苑外散歩は、天候に応じて毎日行っている。	外出により受ける効果を良く理解されており、広い敷地内や周辺散歩の日常化や買い物・ドライブ等外出機会の確保に努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心されることも十分理解しているが、周辺症状の悪化につながるリスクもあるため、小遣い金は総括して、施設金庫で保管している。また小額の場合は家族の了解を得て利用者自身が所持している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各利用者のできる能力を見出し、側面的支援で対応をしている。また毎月1回は家族様宛てに近状報告を手紙に記したり、電話をしたいと希望があれば対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が木をふんだんに使用しており、利用者の心を和ませる環境になっている。また季節を感じて頂ける草花や壁画を装飾し、安心した生活を保持している。	木材をふんだんに使用し、安らぎが感じられる共用空間は清掃も行き届き清潔感があります。また、壁面を利用して季節感を覚える装飾や自然光の採り入れ等も工夫され穏やかに過ごせる環境となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者が思い思いに過ごして頂ける様に十分な空間を創っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に大切な物、なじみのある物など持参して頂いている。また家族が宿泊できるスペースの確保も十分で、家族も自由に使用できる事を話している。	使い慣れた調度品や好みの品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別ケアを基本とし一人ひとりのペースに合わせ対応している。また利用者の目線に合わせ「わかること」「できること」を環境面からも支援している。		